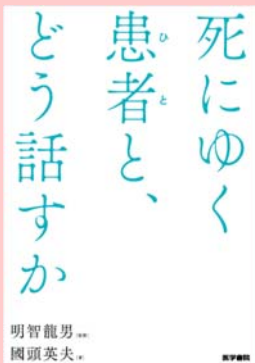


# 東都医療大学図書館通信

## 『死にゆく患者(ひと)と、どう話すか』



『死にゆく患者(ひと)と、どう話すか』  
國頭英夫 著、医学書院/刊

日本赤十字看護大学の「コミュニケーション論」の授業を1冊にまとめたこの『死にゆく患者(ひと)と、どう話すか』。

著者は、進行がんの治療を専門とする臨床医・國頭英夫先生で、医療現場でのコミュニケーションの重要性をわかりやすく説いています。授業のように語りかける口調で、とても読みやすい本です。「医者には三つの武器がある。第一に言葉、第二に薬草、第三にメスである」。これは、本書で紹介されている医学の祖・ヒポクラテスの言葉で、医学において、患者さんとのコミュニケーションがいかに大切かが伝わってきます。

國頭先生は、2003年にドラマ化された『白い巨塔』(唐沢寿明/主演, 山崎豊子/原作)の医療指導・監修をされていました。小説の舞台は1963年の設定のため、2003年に作成されるドラマでは、時代を合わせるために様々な工夫がされたそうです。その工夫のひとつとして挙げられるのが「がん告知」。原作の時代では一切行われていなかったこの「がん告知」を、2003年のドラマでは非常に大きなテーマとして取り上げたそうです。ドラマをご覧になっていた方は覚えていらっしゃるでしょうか。江口洋介さん演じる里見脩二先生が、木村多江さん演じる林田加奈子さんに、末期の胃がんを告知するシーン。このシーンにおいて國頭先生は、「座って話すこと」「時間帯が夜であること」という場の設定の大切さ、「告知後は基本的に患者から目を逸らさない(=落ち着いた印象)」「言葉と言葉の間合いを十分にとる(=丁寧な印象)」、そして「安易に患者を励まさない」などの態度・話し方の重要さ、を指導されたそうです。なぜ、告知の「時間帯が夜である」というと、深刻な話をしているときに、当直などほかの職務がなく、呼び出しがかからないようにという配慮からだそうです。また、「安易に患者を励まさない」ことについては、このシーンでむしろ「頑張れ」と励ます医者は「無能で、無神経で、無責任」なのだそうです。ドラマの作り手側は励ましの台詞を入れたかったそうですが、國頭先生をはじめ、医療監修をなさっていたほかの先生も「ここで頑張れ、は絶対にない」と意見が一致し、この名場面が生まれたと記しています。

これから臨床現場に立つ皆さんは、日々、回復に向けて治療に専念している患者さんたちと毎日接することとなります。なかには回復を見込めず、死に向かいつつある人もいます。皆さんはそんな患者さんたちと、何を話しますか? どのように接しますか?

重厚なテーマでありながら、國頭先生のお人柄でユーモアあふれる講義録となっています。信用と信頼のコミュニケーション・スキルを学べる國頭ゼミ。ぜひあなたも、國頭先生の授業を体感してみませんか。きっと心に残る講義となること間違いなしです。

## 雑誌架が設置されました



図書館内に雑誌架が設置されました。これまで館内1F奥に配架しておりました雑誌類を、すべてこの雑誌架へ移動しております。なお、雑誌架設置に際し、学習机を2セット、2F閉架書庫へ移動させていただきました。2F学習スペースはより静かな環境で勉強できるスペースとなっております。ぜひご利用くださいませ。

## 1月中旬～2月中旬までに納品された図書など

- ◆図書◆ 『医療六法 平成30年版』『子どものからだと心白書 2017年版』
- 『国民健康・栄養の現状 平成26年版』『治療薬マニュアル2018年版』
- 『ナースのためのくすりの事典 2018年版』『今日の治療薬 2018年版』
- 『今日の治療指針 2018年版』『社会福祉の動向 2018年版』

\* 管理栄養学部関連の図書等につきましては、ただいま整備中です。ご利用いただけるまで少々お待ち下さいますよう、お願い申し上げます。

- ◆雑誌◆ ※下記OPACをご参照ください。  
<http://www.lib-finder2.net/tohto/servlet/New?findtype=1>

## 雑誌製本をおこなっています

下記の雑誌は製本中です。

3月下旬頃までご利用にできません。ご不便をおかけしますが、何卒ご了承くださいませよう、よろしくお願ひ申し上げます。

2016年 和雑誌・洋雑誌

東都医療大学図書館

ただいま雑誌製本を行っております。2016年和雑誌・洋雑誌につきましては、製本が終了するまでご利用いただけません。ご不便をおかけしますが、何卒ご了承くださいませよう、よろしくお願ひ申し上げます。

## 閉館のお知らせ

閉館のお知らせ

蔵書点検等実施に伴い下記を閉館します。

3月14日(水)～27日(火) 予定

※3月14日(水)・15日(木)は学習スペースのみ閉館です。

東都医療大学附属図書館

蔵書点検等実施に伴い、上記期間、図書館を閉館いたします。ご利用者の皆様にはご迷惑をおかけしますが、何卒ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。





(左)『オレたちバブル入行組』池井戸潤/著、文芸春秋/刊 (中央)『植物図鑑』有川浩/著、角川書店/刊 (右)『医師は最善を尽くしているか』アトール・ガワンテ/著、原井宏明/訳、みすず書房/刊

## 視野を広げる読書

成人看護学領域 助教 中井美鈴

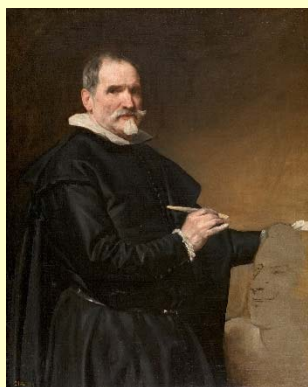
私は昔から、雑誌は見るけれど小説はほとんど読まない、夏休みの読書感想文を書くのは大の苦手、新聞などの活字を見るのも面倒…という学生でした。まさしく「レポートを書くのが苦手」という学生の皆さんと同じだったかな、と思います。

看護学生になってから(寮生活でテレビが無かったので)、小説や新聞を読む回数が徐々に増えました。そして、看護師として働き始め、患者さんと会話し情報を引き出すためにも、看護学以外の様々な視点が必要であると気づきました。その視点を広げてくれるのが様々な書物です。小説の中で時代背景や地域の特徴を知り、新聞からは世界情勢や経済状況、医療福祉の問題やスポーツ情報などを得ることで、患者さんとの会話をするきっかけが生まれ、患者さんの生活背景や人生観などを知るヒントを得ることができます。

例えば、池井戸潤氏の『オレたちバブル入行組』シリーズ(文芸春秋)を読んでいたら、団塊世代の患者さんとの会話で成人期の背景が見えてくるかもしれません。有川浩氏の『植物図鑑』(角川書店)を読んでいたら、花や野草、料理好きな患者さんと趣味の話で盛り上がり、退院後の食事や運動療法を取り入れる時のヒントになるかもしれません。このように、何かしらの看護のヒントやアイデアが本の中にはたくさん詰まっています。

他にも、医療の世界に入る者として手に取ってもらいたい書籍が、アトール・ガワンテ著の『医者是最善を尽くしているか』(みすず書房)です。看護学生の皆さんが日ごろから学んでいる観察力や基礎看護学で演習した手洗い法などの感染対策をはじめ、戦場などの重症患者が多い救急現場の医療体制、がん治療に対する患者家族の思いと医療者の思いや葛藤など、現役の外科医で『The New Yorker』誌のライターである著者が、実際に経験したことや取材を通じて得たエピソードを綴っています。看護技術の復習にもなりますし、様々な医療現場やそこに携わるスタッフの考え方、患者家族の思い、そして「看護師として働くこと」について考えさせられる内容です。この本を読んでから実習に行くと、医療の世界がよりリアルにわかるのではないのでしょうか。

本を読むのが苦手だった私でも、面白い小説を見つけて読んでいるうちに活字に慣れてきました。図書館には、私たちの心の栄養剤になる読みやすい書籍がたくさんあります。本を読むのが苦手な方、看護の勉強でちょっと疲れたと感じた方は、ちょっと探検する気持ちで図書館に足を運んでみてください。きっと今よりも世界観が広がると思います。



### プラド美術館展 バラスケスと絵画の栄光

世界屈指の美の殿堂といわれるプラド美術館。スペイン王室の王立美術館として1819年に開設されました。日本では、過去に4回プラド美術館が開催されていますが、5回目となる本展では、プラド美術館の誇りであるディエゴ・バラスケス(1599-1660年)に焦点をあて、彼の作品7点と17世紀の珠玉絵画など61点を含めた70点を紹介しています。バラスケスは国民的画家としての重要性から、まとまった数で貸し出される機会が限られており、本邦初公開を含む彼の重要作7点が出品される本展は、かなり貴重です。

日本とスペインとの外交関係樹立150周年を記念して開催されるこのプラド美術館展。数々の絵画で再現された17世紀スペインの国際的アートシーンに、あなたも足を運んでみませんか?

(左上)ディエゴ・バラスケス(王太子バルタサル・カルロス騎馬像)1635年頃  
(上右)ディエゴ・バラスケス(ファン・マルティネス・モンタニェースの肖像)1635年頃  
(下左)バルトロメ・エステバン・ムリーヨ(小鳥のいる聖家族)1650年頃  
(下右)アントニオ・デ・ペレーダ(シェヴァア数番)1634-35年  
\* 作品はすべてマドリッド、プラド美術館(Museo Nacional del Prado)



会場：国立西洋美術館(上野公園) (〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7) 会期：2018年2月24日(土)～5月27日(日) 休館日：月曜日 \*3月26日(月)、4月30日(月)は開館。 開館時間：午前9時30分～午後5時30分 \*金曜日、土曜日は午後8時まで。\*入館は閉館の30分前まで。 観覧料金：一般1,600円/大学生1,200円/高校生800円 \*中学生以下は無料。 \*心身に障害のある方及び付添者1名は無料(入館の際に障害者手帳をご提示ください) \*2018年2月24日(土)～3月4日(日)は高校生無料観覧日(入館の際に学生証をご提示ください) 公式サイト：<http://prado2018.yomiuri.co.jp> お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル)

### 雪化粧



寒さが厳しく、降雪が続きますね。普段見慣れた景色も白いパールに包まれ、幻想的な風景となっています。通勤・通学にはたいへんな影響を及ぼしましたが、道行く小学生たちが雪を楽しみながら登校する姿は、たいへん微笑ましかったです。大学敷地内に作られた雪だるまも可愛らしかったですね。